

Ⅰ.授業時数特例校制度導入の考え

(1)実施の目的

□数学科・英語科における情報活用能力、問題発見・解決能力の育成を目指して導入

ア 令和6年度より実施してきた「明成タイム（放課後10分間の補充学習）」を授業時数特例校制度の導入により、年間指導計画に位置づけ、学校課題の解決を目指す。

イ 思考力・判断力・表現力の積み重ねが特に重要となる「数学」「英語」に焦点を絞って実施

ウ 職員アンケートによる実施教科の決定など、全職員の思いを共有して制度の導入・実施

□数学科・英語科における探究的な学びの充実に向けて

ア 日常の事象や他教科等での学習を関連付けた課題設定

イ 情報活用能力、問題発見・解決能力の育成を目指した意図的な課題設定

(2)解決を図る学校課題

令和6年度の全国学力・学習状況調査では、「思考力・判断力・表現力」の観点に大きな課題があることが明らかとなり、放課後10分間の補充学習「明成タイム（国語・数学・英語）」を導入し、学力向上の一助とした。

令和7年度からは、今回の制度を活用することにより、年間指導計画に位置づけ、意図的・計画的な指導を継続し、学校課題の解決を目指す。

(3)保護者・地域住民への周知

□学校だよりにて保護者、地域住民に周知（R6.12月 / R7.3月）

□保護者文書にて周知（R7.3月）

□よくわかる明成（学校生活全般について記載されたもの）への記載（R7.4月）

□PTA 総会・学年懇談会での説明（R7.4月）

2. 各教科等年間授業時数

上段…学校教育法施行規則に定める標準授業時数 下段…変更後の授業時数（授業時数の増減）

学年		第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
各教科の授業時数	国語	140	140	105
		132 (-8)	132 (-8)	100 (-5)
	社会	105	105	140
		99 (-6)	100 (-5)	133 (-7)
	数学	140	105	140
		153 (+13)	118(+13)	153(+13)
	理科	105	140	140
		99(-6)	133(-7)	132(-8)
	音楽	45	35	35
		45	35	35
	美術	45	35	35
		45	35	35
	保健体育	105	105	105
		100(-5)	100(-5)	100(-5)
技術・家庭	70	70	35	
	70	70	35	
外国語	140	140	140	
	152(+12)	152(+12)	152(+12)	
特別な教科である道徳の授業時数		35	35	35
		35	35	35
総合的な学習の時間の授業時数		50	70	70
		50	70	70
特別活動の授業時数		35	35	35
		35	35	35
合計		1015	1015	1015
学校行事		36	44	36
生徒会活動		4	4	4

第 1 学年の余剰を含めた総授業時数 [1038.6 時間] 余剰時数 [23.6 時間]

第 2 学年の余剰を含めた総授業時数 [1029.2 時間] 余剰時数 [14.2 時間]

第 3 学年の余剰を含めた総授業時数 [1025 時間] 余剰時数 [10 時間]